

名前

様

あなたの解説

尺度の解説

充実性

現在の自分に充実感を持っているかどうかを見るもの。充実性が高い場合、現在の自分に自信があり、何に対しても積極的に関わり、前に進めていこうという意欲に溢れている。コミュニケーションが豊になる。充実性が低い場合、自分に自信がなく、何に対しても消極的。

Satisfaction

自信に溢れていて、すべてに積極的に関わっていく意欲に満ちています。ただ、少し自信過剰な面があり、自分の思いですべてを判断する傾向があります。そのことに注意してください。

会話性

普通の何気ない会話をする意欲がどれほどあるかを見るもの。会話性が高い場合、何気ない会話をするのを楽しんでいるため、会話の量が多くなり、コミュニケーションも豊富になる。会話性が低い場合、何気ない会話を苦手と感じていて、必要なこと以外は話さない。そのため、会話の量が少なくなる。

Conversation

会話をするのが楽しく、誰とでも気軽に話せます。ただ、少し話しすぎの傾向があります。他人の話聞くことも大切だということを忘れないでください。

交流性

他人と一緒にいることを、楽しいと感じるか、苦痛と感じるかを見るもの。交流性が高い場合、大勢でいることを楽しいと感じ、多くの人と一緒にいたいと思う。そのために、コミュニケーションがとても活発なものになる。交流性が低い場合、他人と一緒にいることに苦痛を感じるため、多くの人と一緒にいるだけで疲れてしまう。そのために、一人でいることを好むようになり、コミュニケーションが極端に少なくなる。

Relationship

他人と付き合うことに苦痛を感じるから、いつも一人でいたいと思っています。親しい友人との付き合いでも、長時間になると苦痛になってきます。また、家族であっても、長く一緒にいると居心地が悪くなり、一人になりたいという気持ちが強くなります。

幸福性

基本的信頼感が豊かであるかどうかを見るもの。幸福性が高い場合、自分に対しても、世界全体に対しても、肯定的に捉える気持ちが強く、すべてを前向きに受けとめて、前進させていこうとする意欲に溢れている。そのため、対人関係は円満になり、コミュニケーションも活発になる。幸福性が低い場合、否定的な見方が多くなり、悲観的に考えたり、批判的に見るものが多くなる。そのため、人間関係は緊張感の高いものになり、コミュニケーションも素直でないものになる。

Happiness

肯定的な見方が優勢で、さまざまなストレスにも負けることがなく、すべてを前向きに進めていくタイプです。ただ、自分の世界を疑うことが少ないために、自分とは違う世界を生きている人の心を受け入れることが、うまくできないという一面があります。

表出性

感情表現が豊かであるかどうかを見るもの。表出性が高い場合、感情表現が豊富で、とても親しみやすい印象なので、コミュニケーションをとりやすい。表出性が低い場合、理性的な会話が多くなるために、親しみやすさは少なくなるが、しっかりした議論ができるようになる。

Expression

自分の心の中の感情が素直に表に出てきません。感情表現が少なく、会話が理性的なものになっています。世間話のようなおしゃべりは苦手で、議論のような論理的な会話を好むタイプです。

共感性

他人の感情を十分に受けとめることができるかどうかを見るもの。共感性が高い場合、他人の感情を素直に受けとめることができるので、心のつながりを深めることが容易にできる。共感性が低い場合、他人の感情を受けとめることができないために、心のつながりをつくりにくく、独りよがりという印象を持たれることが多くなる。

Sympathy

他人の感情が素直に自分の心に入ってきて、他人の気持ちがよくわかる人です。周囲の人は、気持ちをわかってもらえるので、あなたと一緒に話をするのを楽しんでいると感じます。

名前 様

あなたの解説

尺度の解説

尊重性	自分とは違う他人の行動に対して、他人の立場を尊重して、その行動を受け入れることができるかどうかを見るもの。尊重性が高い場合、他人の行動や仕事の仕方を見ても、その人にはその人なりのやり方があると、尊重して受け入れることができる。そのため、対人関係は円満になり、心のつながりを深めやすい。尊重性が低い場合、自分の思いが優先して、他人の行動を自分の基準に合わせようとする。そのために、押しつけがましいと思われることが多くなり、対人関係は緊張感の高いものになる。	Respect	他人の行動が自分の思いと違っていると、気になって仕方がないというタイプです。口出しできるときには必ず口を出して、行動を変えさせようします。そのために、口うるさい人という印象を持たれるでしょう。
融和性	自分の生活文化を他人と融合するときにストレスを感じるかどうかを見るもの。融和性が高い場合、生活の中に新しいものを取り入れることが好きで、他人の文化と融合することが容易なので、コミュニケーションを深めやすい。融和性が低い場合、自分の生活に他人が近づいたり、深く入ってくることに強いストレスを感じる。そのため、コミュニケーションを深めにくくなる。	Harmony	自分の世界に対する愛着があり、それを保持したうえで、自分の世界に適したものを取り入れて、変化していこうとしています。しっかりと個性がありながら、柔軟さも持っています。バランスの良い状態です。
開示性	個人の内面を表に出すことにストレスを感じるかどうかを見るもの。開示性が高い場合、個人のプライベートな情報を開示することにストレスがなく、とても開放的な人となる。そのため、コミュニケーションを深めることが容易にできる。開示性が低い場合、プライベートな情報を開示することに強いストレスを感じるため、秘密主義の人という印象になる。そのために、簡単には近づけない、親しくなることが難しいという感じとなり、コミュニケーションを深めにくい。	Disclose	プライベートな情報の交換が気軽にできます。自分から積極的に話すわけではありませんが、尋ねられれば、こだわりなく話せます。そのために、親密な人間関係をつくりやすくなっています。
創造性	自分で考える傾向が強いのか、他人任せにする傾向が強いのかを見るもの。創造性が高い場合、自分で考える傾向が強く、何に対しても自分なりの考えが出てくる。そのため、その人の本質と結びついた、しっかりしたコミュニケーションをとることができる。創造性が低い場合、自分で考えることをせず、すべてを他人任せにする傾向がある。そのため、その人の本質が曖昧になり、コミュニケーションの基礎がはつきりしなくなる。	Creativity	独自の思いが非常に強く、自分の思いを基準にして行動しようとする意欲に溢れています。そのため、自分の思いを通そうとして、周囲の人と衝突することが多くなります。しかし、豊かな世界を持っているので、相互理解ができれば深い関係を築くことができます。
自立性	周囲の評価や感想に縛られない、自由な心を持っているかどうかを見るもの。自立性が高い場合、周囲の評価に左右されることなく、自分の生き方を不安なく貫くことができる。そのため、対人関係では、冷たい人、他人のことを考えない人という印象になる。自立性が低い場合、周囲の評価を気にする気持ちが強く、他人に合わせようとするが多くなる。そのために、自分の気持ちを抑えすぎて苦しくなったり、依存的な人間関係を築くようになる。	Freedom	一人であることに不安がなく、支えを必要としないタイプです。また、親密な人間関係を煩わしく思う気持ちが強いために、できるだけ他人との関わりは持ちたくないと考えています。
感受性	喜びや悲しみを受けとめることが十分にできるかどうかを見るもの。感受性が高い場合、いろいろなことに感動する心を持っており、話題が豊富。コミュニケーションも豊かになる。感受性が低い場合、好き嫌いがはっきりしているので、話題が偏り、コミュニケーションの幅が狭くなる。	Feeling	感受性が豊かで、いろいろなものに感動する活発な心を持っています。しかし、興味・関心の幅は、少し限定されているようです。そのために、関心のないものには心が動かないということになり、対人関係の幅も限定されることとなります。